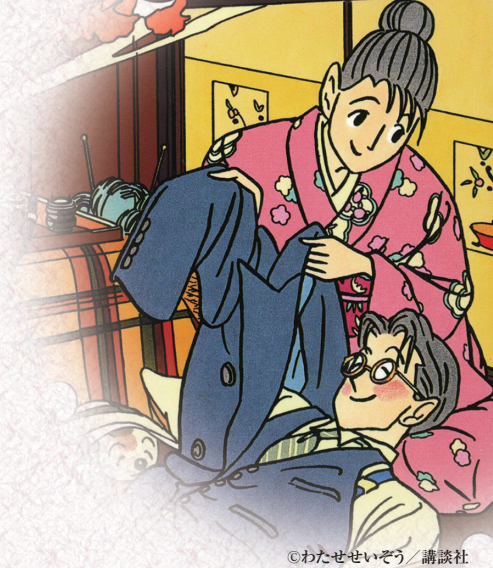


音 楽 劇

# 菜時記

アンティーク着物で歌う

菜源川溜々子



©わたせせいぞう / 講談社

菜(S A I)三十周年記念

(作・わたせせいぞう)

「菜-S A I-」の心温まるエピソードに寄せて、  
女優・源川溜々子が島崎藤村の詩を歌う音楽劇。



舞踊・立方  
中村京妙  
(友情出演)

ピアノ演奏  
神尾憲一

2022年  
11月8日 火 前売り開始  
10月1日 国

【午前の部】開場10:30 開演11:00  
【午後の部】開場13:30 開演14:00

ご観劇料 5,000円  
全席指定 / 上演 約90分(休憩なし)

チケット取り扱い

FC事務局 ☎ 03-5822-0318

三越劇場 0120-03-9354 (10:00~18:00)

三越劇場の前売り初日は、お電話・インターネットご予約のみ  
<http://mitsukoshi.mistore.jp/bunka/theater>



MITSUKOSHI  
三越劇場

〒103-8001 東京都中央区日本橋室町1-4-1  
日本橋三越本店本館6階



## 音楽劇「菜 時記」について

菜の暮らしは、日本の四季と共にある。菜は、亡き母の着物を着こなし、母の教えを大切にしている。とは言え亭主の耕平は、大学助教授で生活は苦しい。耕平は、やさしい人柄で学生にも人気だが、お酒が大好きで女にはからきし弱い性格。さらに正義感があだになっての派閥トラブル。家ではあまり外のことを話さない耕平だが、菜はそれを感じ取り陰ながら献身的に支えている。しかしだからと言って、菜が見て見ぬふりをしている訳では無い。理解できない事(浮気?)には大いに怒る(口を聞かない)。そんな夫婦を愛してやまない周囲の人々がいる。さてこの作品は、「菜-SAI-」のエピソードを、主演の源川瑠々子が紹介しながら菜を演じ藤村を歌う。『菜の日常』と『藤村の詩』を通して、日本人が昔から大切にしてきた和の心と日本の情景を楽しんで頂きたい。

音楽・演出 神尾憲一



©わたせせいぞう／講談社

## 原作「菜-SAI-」について

富田耕平・菜夫妻を主人公に、四季に彩られた日本の美しい風物をちりばめながら、家族の折々の情景を鮮やかに描き出す。大勢の家族に囲まれ、にぎやかに育った耕平と、両親に先立たれ、その思い出を刻む家に暮らしてきた孤独な菜。対照的なふたりが夫婦として結ばれ、新しい、愛情に満ちた家庭を営んでいく。

(「菜-SAI-」単行本より)

## 「菜」とは…

1989年「ハートカクテル」で一世を風靡した、わたせせいぞう氏による作品。1992年から1998年まで「週刊モーニング」(講談社)にて連載された、人気漫画。2007年には、続編である「菜～ふたたび～」を連載。

## 楽曲について

美しい日本語として、その真価が改めて日本人の心をとらえている島崎藤村の詩。

「まだあげ初めし前髪の・・・」で始まる「初恋」(詩集『若菜集』)は、こども番組でも取り上げられる程。

作曲家・神尾憲一も、そんな藤村のこぼの魅力に取りつかれたひとりであり、藤村の「こぼ」そのものがメロディーを生む、と数々の詩を楽曲化。源川瑠々子が、その鈴の鳴るような凜とした声で、歌う。2008年「アンティーク着物で歌う藤村の初恋」と題し、島崎藤村ゆかりの地である長野県各所、東京は三越劇場でリサイタルを行い、好評を博す。

## アクセス



## スタッフ

[原作] わたせせいぞう「菜-SAI-」／島崎藤村「若菜集」「落梅集」 [脚色] スミダガワミドリ [音楽・演出] 神尾憲一 [振付] 源川瑠々子  
[照明] 小川修 [音響] 山崎修治 [舞台監督] 伊藤克憲 [装花] 花千代 [舞台協力] (株)アクテック  
[写真] 殿村忠博 [ヘアメイク] 伊藤直加 [デザイン] りっこ [制作] 原田卓哉  
[主催] (有)ライトリンク・ミュージック [協賛] 和のまるる [後援] アロワナ(株)  
[協力] 講談社／株式会社 アップルファーム [企画・制作] (有)ライトリンク・ミュージック  
【お問合せ先】 まるる事務局 ☎ 03-5822-0318 (受付 10:00～20:00)

音楽劇  
アンティーク着物で歌う  
菜時記